










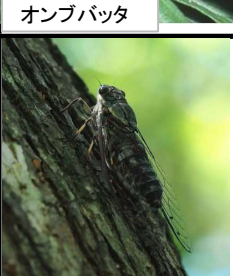




第8回 身近な生き物から見た尼崎の自然調査(各生物の特徴)

1. スギナ(ツクシ)	ツクシの現れる時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	日当たりの良い田のあぜや土手。														
◇3月頃に地上に出てくるツクシは、シダ植物であるスギナの孢子体。うすい茶色で、「袴(はかま)」と呼ばれる茶色の輪状の葉が茎を取り巻いている。ツクシは昔から、おひたしや佃煮として食べられている。草丈は11~15cm程度。ツクシは孢子を飛ばすと枯れてしまうが、その後、緑色でスギの葉に形が似たスギナが伸びてくる。スギナも秋には地上部が枯れ、地下茎のみが残り、春先、再びツクシが伸びる。															
2. ススキ	花の咲く時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	日当たりの良い草原。														
◇秋の七草のひとつ。株を作り、多数の茎が立つ。草丈は1~2m。葉は細長く、縁は鋭い鉤状になっている。茎の先端に長さ20~30cm程度の十数本に分かれた花穂をつける。種子には白い毛が生えており、穂は全体的に白っぽくみえる。種子は風によって飛ぶことができる。似た姿をもつものに、オギ、ヨシなどがあるが、オギ、ヨシは株立ちせず、一本一本が茎を立てる。また、花の先端に「のぎ」と呼ばれるトゲのようなものがあるのはススキだけの特徴。															
3. カタツムリ	観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	落ち葉が多く、草木の生えた湿った場所。														
◇陸上に棲む巻き貝であり、白色や褐色の堅い殻をもつ。雨降りなどの湿った状態を好んで活動するため、梅雨の時期に多く見かける。また、コンクリート塀等で、殻を作るためのカルシウムを摂っていることもある。日本産では1mm前後のものから数cmのものまである。一般にカタツムリと呼ばれる貝には、頭部に触角が2対あり、大きい触角の先端には眼がある。カタツムリは乾燥に弱い。貝に蓋はなく、乾燥に耐えるために、殻に閉じこもり、殻の入り口に膜を張り、水分を保持して次の雨を待つ。															
4. トンボ	成虫が観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	河川、湖、池沼などの水辺や草原。														
◇細長い4枚の翅(はね)と細長い腹部をもつ昆虫。体や羽の色、模様は種により様々。日本一小さいトンボはハッチョウトンボで、体長が2cm程度。(1円玉の直径とほぼ同じ)。日本一大きなトンボはオニヤンマで、体長は8~11cm。水辺があれば、池、川、プールでも飛んでくる。前・後翅の形が同じイトトンボの仲間と、前・後翅の形が異なるシオカラトンボなどの仲間で大別される。オスとメスで体色の異なるものも多い。															
5. バッタ	成虫が観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	河原や草原。														
◇後足の筋肉が発達し、強く跳びはねることができる。外敵が近寄ると、跳躍と同時に4枚の翅(はね)を開いて飛んで逃げる。幼虫の頃から成虫のバッタと同じ形をしており、脱皮を繰り返して成長する。バッタの仲間は全て草食であり、触覚が短く、翅と足をこすりあわせて鳴く。コオロギなどキリギリスの仲間は肉食のものが多く、触覚が長く、翅どうしをこすりあわせて鳴く。どちらも草地に生息するものであるため、見つけた場合はバッタとして記録する。															
6. ツクツクボウシ	声を聞ける時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	広葉樹のある平地~山麓														
◇声の確認で調査する。夏の終わりが近づいてくると「ツクツクボーシ、ツクツクボーシ」と鳴き始める。翅は透明で、大きさはクマゼミよりやや小さい。オスの方が腹部が長い分メスより大きい。頭部は緑色で後胸部の中央にもW字型の緑の模様があるが、腹部は黒色が多い。動きが早く、声のする方に近づくと、すぐに飛んで逃げってしまうので、姿を見ることは難しいが、鳴き声は他に間違えるものはいないので、声を聞いたら「見た」として記入する。															
7. その他のセミ	成虫が観察される時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
	広葉樹のある平地~山麓。														
◇セミは樹木がないと生きていけない。夏に交尾したメスは樹木に卵を産みつけ、多くのセミではこの卵は翌年の6月に孵化して地中にもぐり込み、そこで木の根から吸い上げられる養分をとり脱皮を繰り返して大きくなり、成虫になるのに1~5年といわれている。最後の脱皮のあと、地上に出て、木の幹や枝、葉先等で羽化する。従って、セミは公園や樹林地に多く見られ、木の種類の多いところに集まる傾向がある。視認より、鳴き声による確認の方が容易な生物である。															

アキアカネ

アオモンイトトンボ

トノサマバッタ

オンブバッタ

クマゼミ

クマゼミ(抜け殻)

市ホームページでは写真をカラーで確認できるほか、過去の調査結果も閲覧できます。

<http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/kankyo/hozen/1031016.html>

(トップページ→くらし・手続き→環境・緑化・公害→環境保全・緑の街に

→身近な生き物から見た尼崎の自然調査)